

小売事業者のリサイクル状況

福祉作業所の回収状況

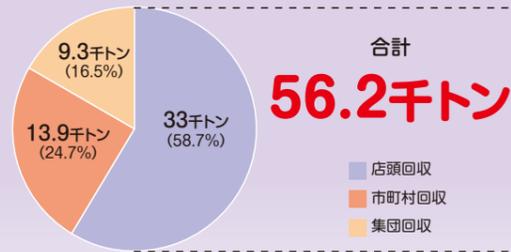


家庭から出た紙パックはスーパーなどの店頭で多く回収されています。

家庭からの紙パック回収量の約6割を占めているのがスーパーマーケットなどの小売事業者による店頭回収です。

店頭回収の調査は、日本チェーンストア協会と日本生活協同組合連合会からの提供情報のほか、独自調査により行っており、2011年度の店頭回収量は33.0千トンで前年度より0.6千トン減少しました。震災の影響もありましたが、多くの紙パックが回収されました。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



取り組んでいます! リサイクル

ユニー株式会社

(本社: 愛知県稲沢市)

取組事例

「ユニー(株)」は東海地区を中心に全国227店舗(2011年7月末現在)を展開するチェーンストアです。「環境理念」「環境方針」を掲げ、2008年には総合小売業界で初めて「エコ・ファースト企業」に認定されています。

1998年、容器包装の削減とリサイクルを目的として各容器の回収を始めた際、紙パックの回収も始めました。回収ボックスは食品を取り扱う217店全店舗に設置し、2010年度の回収実績は約622トンでした。回収された紙パックから作られた再生品は「環境配慮商品 eco! on(エコオン)」として販売されています。

お客様にリサイクルの仕組みを理解していただくため、2001年に「エコロお店探検隊」というプログラムを立ち上げました。これは、小学生が各店舗の環境保全活動や環境にやさしい買い物、エコ工作などを体験できるプログラムで、この環境学習の中に、新たに「紙すきはがきづくり」を取り入れたいと、容環協支援で社員有志を中心に「紙すきはがき講習会」を実施しました。

楽しみながら環境問題に興味を持ち、お客様に「今できること」を実践してもらうきっかけを提供しています。



容環協専門委員による講習会の模様

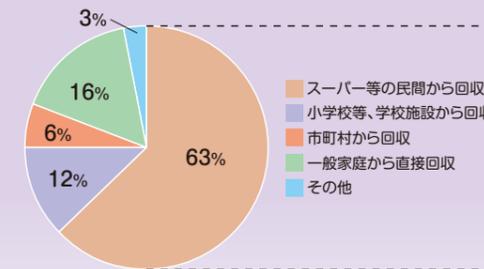
紙パックの回収以外に再利用によるリサイクル活動も行っています。

福祉作業所と市民団体の回収元はスーパーマーケット等の民間回収ボックスが多くを占めるほか、小学校等の学校施設、市町村の拠点、一般家庭などがあります。

回収以外にも、紙パックを再利用した手すきはがきやしおり等、紙パックリサイクル活動が行われています。

推計回収量は前年度と同じ約1千トンでした。

福祉作業所、市民団体の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます! リサイクル

社会福祉法人福祉の郷 なないろ作業所

(広島県安芸郡)

取組事例

「なないろ作業所」は、障がい者自立支援法の理念である「障がい者がその有する能力や適性に応じ、自立した日常生活や社会生活を送ることができる」を目指し、平成23年4月に多機能型事業所として設立されました。作業所では、介護的なサービスや就労支援等の訓練系サービスを提供するとともに、他のサービスや相談支援も行っています。

活動としては、地元のスーパーや小学校、幼稚園など近隣から回収した紙パックを再利用した「手すきはがき」の製造・販売、全国から「原爆ドーム」に届いた「折鶴」の一部を細かくして漉き込んだ「手すきはがき」や「灯籠流し用の灯籠」などの製造を行っています。なないろ作業所で作られた「手すきはがき」は、平和記念公園内にある広島平和記念資料館でも販売されています。



手すきはがき制作「水切り工程」

折鶴を漉き込んだはがき

市町村回収・集団回収の状況



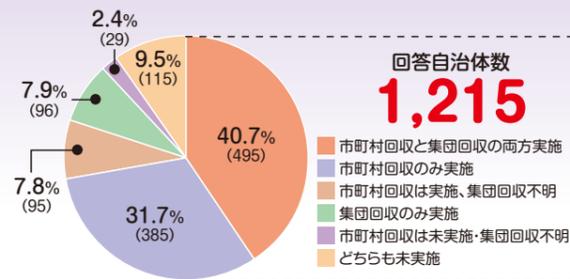
紙パックの回収は
全国の約9割の市町村で
取り組まれています。

2011年度調査は全国1,742市町村のうち、震災の影響が残る14市町村を除いた1,728市町村を対象に実施し、1,215市町村から回答を得ました。回答人口比率は日本全体の89.1%になります。

調査では、市町村や一部事務組合などが行う回収を「市町村回収」、市町村に登録された住民団体による回収を「集団回収」としています。

市町村回収と集団回収の実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収の実施率は80%、集団回収は不明を除いて49%でした。市町村回収と集団回収のいずれかを実施している自治体は88%です。9割近くの市町村が紙パックの回収に取り組んでいることになります。

市町村回収と集団回収の実施率



市町村回収・集団回収の
回収量は安定しています。

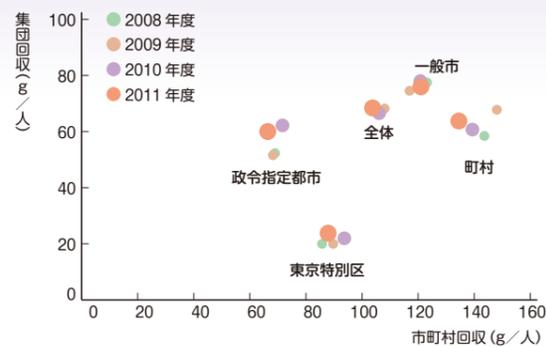
市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2011年度は市町村回収量が13.9千トン、集団回収量が8.6千トンとなりました。

1人あたりの回収量を見ると、全国人口の6割以上を占める一般市の回収量がこの数年安定しているため、全体では大きな変動は見られません。政令指定都市や東京特別区で回収が進んでいないことが引き続き課題となっています。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

	全体	一般市	政令指定都市	東京特別区	町村
市町村回収					
推計量(千トン)	13.9	9.9	1.6	0.8	1.6
都市類型別回収推計量比率	100%	71%	12%	6%	11%
1人あたりの回収量(g/人)	109	123	62	93	133
集団回収					
推計量(千トン)	8.6	6.1	1.5	0.2	0.8
都市類型別回収推計量比率	100%	71%	18%	2%	9%
1人あたりの回収量(g/人)	67	75	60	23	64
都市類型人口(百万人)	127	81	26	9	12

市町村回収と集団回収の都市類型別原単位の推移

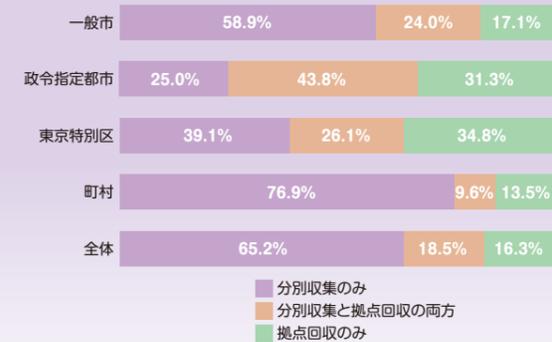


全国の8割以上の市町村では
紙パックの分別収集が
実施されています。

市町村の紙パック回収方式には、分別収集方式(戸別回収やステーション回収)と拠点回収があります。

紙パックの回収は、全体では8割以上の市町村で分別収集が実施されています。都市類型別で見ると、一般市と町村は約6割以上が分別収集方式のみとなっています。政令指定都市と東京特別区は3割以上が拠点回収のみですが、分別収集の比率も少しずつ増加しています。

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル

東京都中野区

取組事例

武蔵野台地の西端に位置する中野区は、江戸時代に入り物資の流通経路の役割とともに、江戸市民の台所を賄う穀物、野菜の供給地となって発展し、近代になって、鉄道路線の開設とともに、人口も増え、都心に働く人々の住宅地として発展してきました。

資源回収に参加・協力し、再生品を積極的に利用するため「めざせ、ごみゼロ生活」を展開し、1人1日当たり100gごみ減量などに取り組んでいます。資源回収への参加・協力を呼びかけ、「牛乳パック1個 30グラム」など目安となる具体的な重量をHPに掲載しています。

古紙回収は、平成19年3月末に区の回収を廃止し、集団回収に全面移行しました。集団回収の登録団体は、223団体(平成24年9月現在)で、集積所は「集団回収集積場所」と書かれたオレンジ色の旗や幕を目印にしています。

牛乳パックは、新聞、段ボールなどと同様に古紙資源として雑がみ(包装紙、菓子箱、ティッシュ箱、カタログ、パンフ、牛乳パックなど)の1品目として位置付けられています。一部の自治会では、古紙以外の回収品目として、「古着・古布」「紙パック」「アルミ缶」を分別回収している所もあり、段階的に紙パックの分別収集も図りたいとのことでした。

また、中野区は単身者が非常に多く、紙パックを分別してまとめて出すことは難しいので、雑がみや雑誌と一緒に出して、リサイクルするようお願いしているとのことでした。



リサイクル講習会会場(なかのZERO)



手すきはがきづくりの説明

学校のリサイクル状況

再生紙メーカーのリサイクル状況

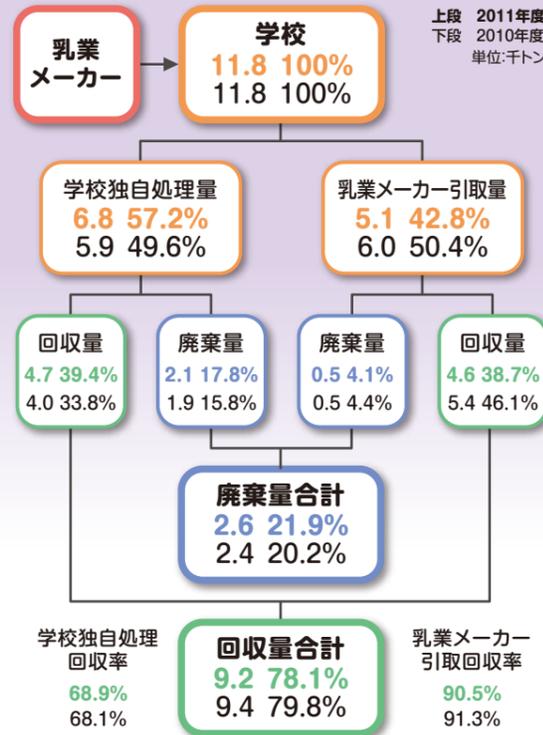


家庭からの紙パック回収も活発に行われています。

学乳に使用された紙パックの回収量の総量は前年度と同じ11.8千トンで、78%にあたる9.2千トンがリサイクルのために回収されました。2011年度は学校が独自で処理をする量が増加しました。そのうち70%近くがリサイクルされ、この比率は上がってきています。

その他、小学校では理科や算数などの授業での紙パック再活用や、家庭からの紙パック回収などが行われています。

学乳紙パックのマテリアルフロー(推計値)



※学校独自処理とは、学校が自治体や古紙回収業者などに直接引き渡すことを指します。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル

神戸町立神戸小学校 (岐阜県安八郡神戸町)

取組事例

神戸町は、濃尾平野の北西部に位置し、揖斐川の西岸に広がる平坦地にあります。

その中央部に位置する神戸町立神戸小学校は、明治6年に創設された歴史の古い学校です。児童数は511名。新校舎も竣工し真新しい校舎となり、恵まれた環境の中で生徒は、「志を立て やりぬく子(立志力行)」の教育目標のもと学習や運動に励んでいます。また、PTA活動を軸として消防団、商工会、老人会等地域の協力を得て、いろいろな活動に取り組んでいます。

リサイクル・エコ活動も非常に盛んで、紙パックやペットボトルキャップのリサイクルは十数年前から総合学習として取り組まれています。今は毎週水曜日に家庭から持ち寄り、回収した紙パックの枚数とそれから再生されるトイレトペーパー、キャップリサイクルによるワクチンの数を計算して記録し掲示板に貼り出し、生徒のリサイクル意識向上につなげています。平成23年度の紙パックの回収量は、約9,000枚でした。

また、3年前に事情により中断されていた200ml学乳パックのリサイクルは、出前授業をきっかけに神戸町役場とも相談して再開に向けて進行しています。



電力使用状況の監視(週報グラフ画面)



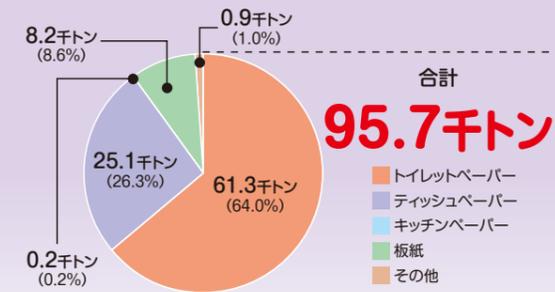
生徒たちが迎えてくれました

トイレトペーパーへの使用が大きく増加。

アンケートで回答を得た25社の再生紙メーカーのうち、紙パックメーカーと飲料メーカーから発生した損紙や古紙、および家庭と事業所から回収された紙パックを受け入れているのは19社でした。

国内で回収した紙パックと輸入した紙パック古紙をあわせた総受入量は119.7千トンで、このうち約80%の95.7千トンが再生紙として資源化されました。2011年度は、トイレトペーパーに利用された量が3分の2まで増えました。その他、ティッシュペーパーやキッチンペーパーなどの製品になっています。

リサイクル製品への利用状況



取り組んでいます! リサイクル

信栄製紙株式会社 (静岡県富士宮市)

取組事例

信栄製紙株式会社は1961年設立の再生紙によるトイレトペーパー製造企業で、主に「コアレス」などの芯なしの製品を生産しています。飲料用紙パックのほか、雑がみ、電車の切符や機密書類もリサイクルしていて、1日約100トンの古紙を受け入れ、約50トンをトイレトペーパーとし、約30トンはパルプにしてグループ内の工場に原料として供給。古紙に付着した紙以外のもの20トンも出来る限り燃料などとして利用しているとのことでした。

白さと強度のある高品質のトイレトペーパーを作るため、原料古紙の30%以上は飲料用紙パックを使用。古紙は機械で溶かされたあと、異物やインクを除去し、きれいになったパルプを抄紙機で大きなロール紙とします。それをトイレトペーパーの太さに巻き直し、輪切りにして完成。途中の工程で発生する製品にならない紙も再度溶解されます。少しでも無駄が発生しないようトイレトペーパーの幅にも工夫をしているとのことでした。



コアレス商品群



リサイクルパルプの巻き取り抄紙機